

多くの人々の
手によって
伏せられた
こもの下で、やがて
土が蘇生され、
生命が育まれる。



■大山頂上の保護活動

■中国地方最高峰(標高1,729m:剣ヶ峰)の大山は日本百名山にも数えられ登山者が多く、昭和40年代から50年代には、山頂(標高1,709m:弥山)周辺に生育していた高山植物群落が踏み荒らされてほとんどなくなり、昭和60年代には山頂周辺の裸地化、土壌浸食、土砂流出による崩壊が問題となりました。

■このような状況を憂慮し、昭和60年4月に地元自然保護団体や行政機関が集まって「大山の頂上を保護する会」が結成され、登山者一人一人が木一本、石一個をもって登り、頂上の回復を目指す「一木一石運動」が始まりました。

■この運動は、一般登山者一人一人が保護活動に参加するボランティア活動であり、長年ボランティアと行政が共に協力してきた全国的にも稀な事例です。現在ではおおむね植生が回復しつつありますが、かつての状況に近づけるため現在でも地道な活動が続けられています。

一人一人が
持ち上げた
一石で造成



活着の良い
ヤマヤナギ
(一木)の植栽



オオバコなど
外来植物の
除去



■大山頂上の保護活動 ～一木一石運動によって甦ってきた、山頂の自然～

一木一石運動



そげだネ

頂上の土は固てーな

頂上でこのも伏せ作業

わらでできた「こも」を山頂の乾いた地面に伏せることで、植生が活着しやすい土壌環境となる。

頂上へ!



一個だけのやつより3つくらい!

登山者へ一木一石運動への協力を依頼

麓から



河原での石拾い

大山の頂上を保護する運動 Green Movement of Mt. Daisen
 大山の頂上を保護する会

「一木一石運動」参加へのお願い
 Please take a stone to top of the mountain.
 頂上には土が固く、植物の活着が難しいため、登山者が持ち上げた石を頂上に積み重ねることで、土壌環境を整え、植物の活着を促すことを目的としています。

大山の頂上を保護する会



南光河原駐車場の石置き場

その他の活動



外来植物の除去作業

オオバコなど麓の外来植物の種子が、登山者に付着し持ち込まれる。



復元植生調査(定期的に実施)



頂上小屋横の石置場



しっかり育つてよ!

ヤマヤナギ(一木)の植栽作業
 試行錯誤の末、ヤマヤナギの活着と生育が一番良いことが解った。

頂上へ!



ヤマヤナギ(一木)の育成作業

活動の成果

Before 昭和60年



甦りつつある頂上の避難小屋周辺

After 平成20年

